

9/1 敬老会 「いつまでも元気で！」

市内3会場で75歳以上の方を対象にした敬老会が開催されました。

辰口福祉会館では、寿保育園の園児による元気っぱいの遊戯や、辰口中学校吹奏楽部による素晴らしい演奏などが行われました。

各会場では、9月の「能美市いきいきキャンペーン」に伴い、のみ商業協同組合が出張店舗を設け、地元の特産物などが販売されとても好評でした。



YOSAKOI ソーラン日本海によるダイナミックな舞踊に参加者たちは憩いのひとときを過ごしました。(辰口福祉会館)

8/22~25 第32回JAPAN TENT開催

8月22日から25日まで、市内14世帯が11の国・地域の23名の留学生を受け入れました。留学生は市長表敬訪問の後、九谷焼資料館・美術館などを見学し、陶芸館の絵付け体験では、世界にひとつだけの作品を作りました。

また、留学生は地域の方々と交流会で親睦を図った後、辰口まつりのじょんから踊りコンクールに参加し、最後まで楽しく踊りました。



最終日、ホストファミリーが手で作ったアーチをくぐってバスに乗り込み、涙と笑顔でお別れをしました。

8/24 約1000人の踊り手が集結 熱狂の一日！辰口まつり

第38回辰口まつりが、8月24日市役所本庁舎周辺で開催されました。地元保育園児のアトラクションで幕を開けた祭りは、好天に恵まれ会場は多くの来場者でにぎわいました。

夕方からは、メインイベントとなるじょんから踊りコンクールが開催され、30チーム約1千人が浴衣や法被など衣装を身にまとい踊りを披露しました。

能美市商工会青年部による「お化け屋敷」や地元食材が味わえる「食彩ひろば」は昼夜問わず人気を集め、特設ステージでは、伝統芸能や辰口中学校と寺井高校の吹奏楽部による演奏の披露、北野まち子さんの歌謡ショーが行われました。



- ①約1000人の踊り手が参加したじょんから踊りコンクール。今年は緑が丘が連覇を果たしました。
- ②にぎわいを見せる食彩ひろば
- ③子どもたちに大人気のウルトラマンショー
- ④能美市交通安全協会の交通安全啓発コーナーも人気を集めました。



中野さん、久生さん 100歳おめでとうございます

8月17日中野貴さん（五間堂）が、9月4日久生幹榮さん（下ノ江町）がめでたく100歳を迎えられました。中野さんは写真撮影でお気に入りの帽子を被り、素敵な笑顔で「ありがとうございます」と話されていました。久生さんはご家族から好物である手作りのプリンが贈られていました。



中野さんご家族



久生さんご家族

坂野さん、東方さん 最高齢おめでとうございます

敬老の日に、市内最高齢となる女性・男性に祝品が贈られました。女性の最高齢は106歳となる坂野千代さん（福島町）、男性の最高齢は104歳の東方一雄さん（石子町）です。2名にはそれぞれ井出市長がお祝い状を手渡したほか、花束と商品券が贈られました。



坂野さんは95歳くらいまで畑仕事をされていて、お米をよく噛んで食べるのが好きとご家族が教えてくれました。井出市長が「最高齢おめでとうございます」と祝福すると、うんうんと頷いておられました。



ご自身が創業した東方萬寿堂で90歳を過ぎても働いていた東方さん。最近は刺身を食べることが楽しみだと教えてくれました。井出市長が「また来年も来ます」と話しかけると「ありがとう」と喜んでおられました。

9/2 九谷焼技術研修所の研修生が絵付け作業 マイスターメダル作成進行中

子どもマイスター賞で、小中学生の優秀者に贈られるマイスターメダルの絵付け作業が始まっています。このメダルは、真空の容器に九谷焼の陶板を封じ込め、時がたつと自然に蓋があく仕組みになっています。北陸先端科学技術大学院大学が最先端の技術と伝統文化を融合させ、作成を進めています。絵付けは九谷焼作家、県立九谷焼技術研修所の研究科の研修生が行い、11月16日の表彰式でメダルが授与されます。



陶板に絵付けをする研修生（9月2日撮影）

9/14 9/21 ウルトラアート×いしかわ動物園ナイトズー 「ダンシングアニマルズ」

能美市といしかわ動物園のコラボレーション企画「ウルトラアート×ナイトズー」の一環として、市内のダンサー兼振付師・宝栄美希さんの演出によるダンスと映像のパフォーマンスが、いしかわ動物園ナイトズーの期間中、2日間限定で開催されました。

いしかわ動物園の動物たちをイメージした、子供たちの自由な発想から生まれたダンスと動物たちの映像が組み合わさり、ナイトズーを一層盛り上げてくれました。



能美市でダンスを学びながら全国で活躍する6人のキッズダンサーが元気に踊りを披露しました。

民山窯探究

金沢卯辰山の春日山窯が廃窯したのが文政初年頃でした。これを惜しんだ加賀藩士がいました。武田民山（本名 秀平）です。細工方として藩に仕え彫刻、細工物に長じ、また書画を能くして「夕月」の別号も名乗りました。文政5年（1822）、若杉窯より本多貞吉の高弟山上松次郎や吉田屋窯の画工鍋屋 丈助の子息で小松の鍋屋吉兵衛らを招き、春日山で従事した越中屋平吉、任田屋徳右衛門らを雇いました。本窯は春日山窯跡をそのまま復興したか、春日山にある民山の持地で新築開窯したかは判然としません。ただ、本窯とは別に錦窯は金沢里見町の自邸内に数基を築き、画工に絵付けをさせ徒弟を養成しました。弘化元年（1844）民山が没し幾ばくもなく廃窯しました。作品の特徴は赤絵細描風の筆致にあり、後年の宮本屋窯の八郎手の先駆をなすものと評価されています。ただ、素地は上質のものでなく、高台銘は概ね「民山」とあります。

小野窯探究

若杉窯で本多貞吉から陶技を学んだ藪六右衛門が、文政2年、能美郡小野村（現小松市小野町）に開いた窯です。近村埴田、八幡などの土で製しましたが、佳品を得るに至りませんでした。天保元年（1830）に近村鍋谷で陶石を発見し素地改良に努めようやく良品を出すに至りました。この頃、九谷焼の陶画工中に名工を輩出し、九谷焼特有の青手や赤の細描画を発展させるようになります。とくに優秀な粟生屋源右衛門、その門人松屋菊三郎、九谷庄三らが小野窯に拠ってその腕を揮いました。彼らは求められれば処々の窯元や絵付け場に移り、また自営に転ずるなど、一箇独立の気風がありました。高台銘は

「小野」が多く、無銘も少なくありません。天保頃を最盛期とした小野窯も主力画工が去り、遂にはもっぱら素地供給に徹していました。藩命で天保12年に窯元が塚野善大夫に替わりましたが、十数年後の安政元年（1854）ふたたび藪六右衛門が再任されました。販路開拓に尽瘁したものの、明治5年に六右衛門が没するにおよび廃窯しました。

蓮代寺窯探究

粟生屋源右衛門の高弟松屋菊三郎が師とともに開いた窯です。天保4年（1833）粟生屋源右衛門に製陶を学び、その後桶屋伊三郎（斎田道開）、本吉の古酒屋孫次に赤絵を習い、天保8年、摂津三田を領する九鬼侯御庭窯に招かれています。三田焼は青磁が有名ですが、伝世する色絵モノは九谷風の絵付けをした作品が多く、これらは伝世する蓮代寺窯製品の色絵陶器と作行きが頗る近いものがあります。天保10年には京に出て尾形 周平に師事し製陶陶業の鑑賞を究めました。弘化3年（1846）に帰郷して小野窯等に従事し、翌4年に能美郡蓮代寺現小松市蓮代寺町の地で開いたのが蓮代寺窯の始まりです。作風は、はじめ土混じりの陶器質の素地が多かったのですが、のち、素地改良が次第になされ、青九谷系や呉須赤絵系の絵を付けたようです。蓮代寺窯は幕末慶応頃に廃窯となりました。高台銘は無銘もしくは不読銘が多いのが特徴です。

文：九谷焼資料館館長 中矢進一



小野窯時代に九谷庄三が描いたとされる赤絵作品「赤絵百老図平鉢」

8/25 楽しみながら防災を学ぶ 防災フェスタ2019開催

今年も能美市防災センターで「備える・救う・支える 一人で・家族で・地域で・五感で楽しむ」をテーマに「防災フェスタ2019」が開催されました。第3回となります今回は、消防車やミニ新幹線などの乗車体験のほか、消防車との綱引きやVRで消火体験などの新たなイベントや展示ブースがありました。大勢の来場者が見守る中に行われた高所火災救助訓練では、消防署員の統率された動きや高所からの急速降下には歓声が上がりました。

そのほか恒例となりましたひば能ん・ゆず美んをはじめとした「ゆるキャラ」の大集合や救急寸劇など子どもから大人まで防災や減災を楽しみながら学びました。



① みんなで力を合わせて消防車と綱引き ②消防署員による高所火災救助訓練での急速降下は統率されていました ③ミニ新幹線にはたくさんの方が乗りました ④救急救命士による心肺蘇生法の指導の様子

みんなでつくる博物館プロジェクト

昔ながらの道具を使ってお米をつくろう～稲刈り編～

9月8日、台風の影響が心配されましたが、お天気にも恵まれ、5月に田植えをした稲の収穫の日をむかえました。鎌を使って稲を刈る人、刈った稲を束ねる人に分かれて作業。慣れない作業に苦戦しつつも、1時間ほどで全ての稲を刈り終えました。

色々な太さの稲の束をトラックへ積み込み、歴史民俗資料館へ。資料館の手すりに稲をかけ、稲を乾燥させるための「はさがけ」を行いました。



子どもたちは「とても大変だったけど、楽しかった」と昔の人の苦労を実感しつつ、笑顔を見せてくれました。

のみ古墳女子活動中

貫頭衣づくり&古墳まつり打ち合わせ

秋常山古墳まつりで、のみ古墳女子の皆さんが着用する貫頭衣づくりを8月24日に行いました。

貫頭衣は、古墳時代に庶民が着ていたとされる衣服。サイズは出土した古墳時代の機織り機を参考にし、素材も当時使用されたと考えられる麻を使って、古墳時代人になりきり！仕上げた貫頭衣には藍の叩き染めや、型染めを行い、可愛い模様もつけました！小さなお子さんにも参加いただき、「とっても楽しかった！」と感想をいただきました。



古墳まつりについては広報のみ11月号で紹介します。



人口と世帯数

2019年9月1日現在

●人口 50,269人
(前月比-30)
男 25,026人 女 25,243人
●世帯数 19,231世帯
(前月比+14)

ひば・ゆずのEco de eco

【3R (スリーアール)】暮らしのなかの3つのR

ごみを減らし環境にやさしい生活を。プラスチックごみ問題を身近に考えてみませんか

① Reduce (リデュース) ごみを出さないようにする

買い物はマイバッグで。詰替商品を選ぶ。使い捨てスプーンなどはもらわない。

② Reuse (リユース) 繰り返し使う

しょうゆやお酒などの一升びんは繰り返し使えます。

不用になった家具や自転車など、まだ使えるものは根上くるくる工房へ！

③ Recycle (リサイクル) ごみや資源を分別して出す

空き缶、ペットボトルなどの資源は、リサイクルされてさまざまな製品に再生されます。

問い合わせ 生活環境課 (☎ 58-2217)